

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年3月21日(2013.3.21)

【公表番号】特表2010-524463(P2010-524463A)

【公表日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2010-029

【出願番号】特願2010-504007(P2010-504007)

【国際特許分類】

A 2 3 L 1/305 (2006.01)

A 2 3 L 1/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/198 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 9/16 (2006.01)

A 6 1 K 47/24 (2006.01)

A 6 1 K 47/14 (2006.01)

A 6 1 P 3/02 (2006.01)

【F I】

A 2 3 L 1/305

A 2 3 L 1/00 F

A 6 1 K 31/198

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 9/16

A 6 1 K 47/24

A 6 1 K 47/14

A 6 1 P 3/02

A 6 1 P 3/02 1 0 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年2月1日(2013.2.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊離アミノ酸とジペプチドとの合計を少なくとも 60 重量%含み、 $1.0 \text{ kJ/mol}$  より高い疎水性を有する疎水性のタンパク性物質のコーティングされた粒子の製造方法であって、前記タンパク性物質を、脱油されたリン脂質組成物の全乾燥重量に対し 20%未満のトリグリセリドを含む脱油されたリン脂質組成物と接触させることを含む方法。

【請求項 2】

タンパク性物質が、遊離アミノ酸とジペプチドとの合計を少なくとも 80 重量%含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

タンパク性物質が、メチオニン、トリプトファン、フェニルアラニン、ロイシン、イソロイシン及びバリンから選択されるアミノ酸を総タンパク量に対して少なくとも 25 重量%、及び/又は上記アミノ酸を数で少なくとも 50%含むペプチドを含むことを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 4】

タンパク性物質が、総タンパク量に対して、遊離アミノ酸又はそれらの塩を少なくとも 75 重量%含むことを特徴とする、請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】

脱油されたリン脂質組成物が、トリグリセリドを 10 重量%未満含むことを特徴とする、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】

脱油されたリン脂質組成物が、リン脂質を少なくとも 65 重量%含むことを特徴とする、請求項 1～5 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】

脱油されたリン脂質組成物が、リン脂質と糖脂質とを合わせて少なくとも 70 重量%含むことを特徴とする、請求項 1～6 のいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 8】

遊離アミノ酸及びジペプチドの合計を少なくとも 60 重量%含み、 $1.0 \text{ kJ/mol}$ よりも高い疎水性を有するコーティングされたタンパク性物質であって、前記タンパク性物質の合計重量の 0.1～1.5%の脱油されたリン脂質組成物のコーティングを有し、前記脱油されたリン脂質組成物が乾燥重量の 20%未満のトリグリセリドを含むことを特徴とするコーティングされたタンパク性物質。

【請求項 9】

0.001～0.1 重量%のリン含有量を有する、請求項 8 に記載のコーティングされたタンパク性物質。

【請求項 10】

1 又は複数の炭水化物、タンパク質、ビタミン及びミネラルから選択される食物成分と、請求項 8 又は 9 に記載のコーティングされたタンパク性物質、又は請求項 1～7 のいずれか 1 項に記載の方法で得られた、コーティングされたタンパク性物質とを組み合わせることを含む、栄養組成物の製造方法。

【請求項 11】

炭水化物、タンパク質、ビタミン及び / 又はミネラルを含む栄養組成物であって、さらに請求項 8 又は 9 に記載のコーティングされたタンパク性物質を炭水化物、タンパク質及び任意の脂質の合計に対して、0.1～50 重量%含む栄養組成物。

【請求項 12】

炭水化物、タンパク質及び任意の脂質の合計に対して、請求項 8 又は 9 に記載のコーティングされたタンパク性物質を 0.5～30 重量%含む、請求項 11 に記載の栄養組成物

。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

[タンパク性物質]

本明細書における「タンパク性物質 (proteinaceous material)」は、あらゆるタンパク質、ペプチド、アミノ酸及びアミノ酸エステルと理解され、パルミチン酸、ミリスチン酸、炭水化物等と共役したタンパク質等の糖化タンパク質及びリポタンパク質等の、さらに少量の他の物質 (例えば 25 重量%未満、好ましくは 5 重量%未満) を含むことができる。かかる他の物質は、タンパク性部分のみがタンパク性物質として見なされる。好ましくは、かかるタンパク性物質は 10 個以下のアミノ酸残基の長さの鎖を有する遊離アミノ酸及び / 又はペプチドを少なくとも 80 重量%、好ましくは少なくとも 90 重量%を含有する。すなわち、アミノ酸残基が 10 個を超えるペプチド及びタンパク質が 20 重量%未満、好ましくは 10 重量%未満である。より好ましくは、タンパク性物質は遊離アミノ酸

及びジペプチドの合計を少なくとも60重量%、特には少なくとも80重量%、さらに少なくとも95重量%、最も好ましくは少なくとも98重量%含む。特別な実施態様においては、タンパク性物質は遊離アミノ酸を少なくとも50重量%、好ましくは少なくとも75重量%、より好ましくは95重量%含む。特には、原則的に遊離アミノ酸のみを含む。コーティング前には、タンパク性物質が結晶形を有していることが好ましい。